

分担金・拠出金の名称	地域農業研究機関拠出金	平成28年度 予算額	1,030千円	総合 評価	B
拠出先の国際機関名	世界野菜センター(AVRDC)				
国際機関の概要	<p>●AVRDCは、開発途上国の貧困削減のため、野菜(野菜)類の生産技術の維持・改良及び、効率的な市場流通機構等の調査・研究、並びに有用遺伝資源の配布事業を行うことにより、環境を考慮しつつ、開発途上国の農村や都市近郊に生活する低所得者層の栄養改善と収入増加を図ることを目的としている。</p> <p>●AVRDCの本部は台湾に所在し、AVRDCは、我が国食品産業等との連携を強化している。</p>				
評価基準	達成状況				
1. 当該機関等の専門分野における影響力・貢献	<p>AVRDCは、栄養や健康の観点から付加価値の高い作物である野菜に特化して、国際(アジア地域)農業研究・開発を実施する唯一の国際機関である。本機関の活動は、SDGsのGoal2(飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する)の達成へ貢献するもの。</p> <p>なお、AVRDCが保存・管理を行う野菜の種類は、約440種であり、特に、トマト等の栄養学上も重要な品種の開発に大きな成果をあげていることから影響力は大きい。</p>				
2. 我が国重要外交課題遂行における当該機関等の有用性(意思決定における我が国のプレゼンスを含む)	<p>(1)我が国の重要外交課題の遂行 AVRDCは野菜に係る多様な遺伝資源を保有しており、高収量、耐病性、高温耐性及び耐乾性などの収穫量に影響を与える栽培特性並びに良食味、高機能性など消費者に好まれる特性を有する系統が適切な栽培試験の実施等により選抜され、農業・食料分野における我が国の外交戦略の主要な目標である、農家の収入安定・向上、食料安全保障や栄養改善などに貢献する品種開発につながる事が期待できる。</p> <p>(2)意思決定における我が国のプレゼンス AVRDC設立時から、我が国関係者(交流協会総務部長)は、AVRDCの理事の地位を維持。AVRDCの最高意思決定機関である理事会に参加し、世界最高水準を誇る我が国の野菜品種改良技術を最大限に発揮するべく、野菜遺伝資源の保全と公共財化を継続的に実施する他、我が国種苗産業及び食品産業との連携を含めた果菜類の商業的品種改良の推進と公共財化等、我が国関心事項の反映を行っている。</p>				
3. 当該機関等の組織・財政マネジメント	<p>AVRDCは、毎年開催される理事会の議論を踏まえつつ、個別の事業成果等について取りまとめた年次報告書を作成するとともに、財務監査については、財務専門の内部での監査の他、外部の会計検査機関への委託を行い、監査結果を決算報告書と併せてウェブ上で公開。</p>				
4. 当該機関等における邦人職員の状況	<p>AVRDCには、現在邦人幹部職員を2名確保(これまで日本代表理事に着任していた濱田氏(交流協会台北事務所総務部長)に加え、2016年4月より岩永氏(JIRCAS(国際農林水産業研究センター)理事長)が新たにAVRDC理事に就任)。また、邦人職員の採用・活用のための取組として、種苗産業との野菜の品種改良に関する共同研究を含めた我が国の人的貢献について検討が行われているところ。</p>				
5. 我が国拠出の執行管理、PDCAサイクルの確保	<p>①Plan:理事会で毎年予算案を策定・承認。 ②Do:我が国の拠出金支払。AVRDCによる予算案執行。現地交流協会等によるAVRDCの運営・活動のモニタリング(理事会メンバー。本省と連携して対応)。 ③Check:内部・外部監査報告書による運営活動の成果及び財務状況等を確認・評価し、毎年、当該国際機関のウェブサイトで公表。 ④Act:翌年度予算の検討に際し、前年の成果目標の達成状況、我が国関係者との連携状況等をAVRDCから聴取し、その結果を反映。</p>				
担当課・室名	国際協力局 地球規模課題総括課				